

■ 全体講評

● 良い点

1	<p>保護者の利便性に配慮して、1時間の延長保育と外注弁当サービスを自主事業として実施している</p> <p>働く保護者の利便性に配慮して、独自事業として、延長保育と外注弁当サービスを実施している。18時～19時の延長保育の料金は1時間400円であり、18時30分以降の迎えの子どもには保護者の希望により、1食200円で間食を用意している。外注弁当サービスは、学校長期休業日（春・夏・冬休み）と土曜日、その他学校のスケジュールによる1日指導日で、お弁当持参日を対象にしている。料金は1食380円、大人サイズを希望する場合は1食450円である。保護者が事情により弁当が作れないなどには、利用でき喜ばれている。その他、1日指導日の登所時間を、9時から8時にして利用しやすく設定している。利用者調査の結果でも、オプション事業や朝8時からの保育に対して、保護者の満足度は高かった。</p>
2	<p>保護者と子どもと一緒に楽しみ、保護者同士の交流を図る場として父母会との共催事業を年3回実施している</p> <p>父母会との共催事業を年3回実施している。父母会の役員と連絡を取り合い相談しながら、子どもたちが楽しみ、保護者同士が交流する場としての共催事業を実施している。保護者が参加しやすいように、行事は土曜日に実施している。今年度は7月に親子でピザとフルーツパフェを作って会食会、12月にはカレーパーティを実施している。その他、3月には4年生の卒所を祝って共催行事を行う予定にしている。</p>
3	<p>学童クラブ室内の子どもたちの手の届くところは消毒液で清拭して清潔な環境を保つようにしている</p> <p>学童クラブ室内の清掃を毎日行い、子どもたちの手の届くところは消毒液で清拭して清潔な環境を保つように心がけている。「感染症対応マニュアル」「応急手当マニュアル」を整備し、ノロウイルス対策として常時対応グッズを学童クラブ育成室内に備えて、緊急時に対応できるようにしている。</p>

● 改善点

1	<p>子どもの自主性を育み、自らの生活を自己管理できるようにするための指導計画の作成が望まれる</p> <p>企画提案書には学童クラブの指導育成内容について、「児童一人ひとりに対する指導方針」「児童の成長に対する配慮」などを示し、自立心や社会性を育む必要性や、子どもたちの自主性の尊重について配慮することを挙げている。当学童クラブでは、登所時の人数把握や生活指導、楽しく過ごす、集団で遊ぶなど子どもが第二の家として安全に安心して過ごせるように配慮し行事の企画や指導を行っている。今後は、放課後の生活や遊びを通じて社会性を身につけ、生活を自己管理できるように援助していく視点と、子どもたちの成長発達を促す、発達に応じた指導計画の作成が望まれる。子どもたち自らが生活を見直し、改善していく力を養っていくために、子どもたちの意見を取り入れるシステムの構築も望まれる。また、児童センターとの併設である利点を生かした学童クラブの子どものセンター自由利用についても検討が望まれる。</p>
2	<p>子どもが落ち着いて過ごせ、遊び込み・勉強に集中できる室内環境の設定の工夫を期待する</p> <p>学童クラブの運営方針には「『楽しさ』と『くつろぎ』を持った保育をこころがける」を掲げている。育成室は明るく、自分の名前の付いた荷物置き場（棚）を用意し、長テーブルをつなげて並べて椅子を置き、自分のおやつ時の席は決められているなど自分の場所を明示し、安心できるようにしている。ワンルームで仕切りがなく、見通しが良いが、自由遊びの際にはテーブルの一行を宿題スペースにしたり、ウレタンマットを出して遊びのスペースを確保したりして工夫をしている。しかし、広く、見通しが良い状態は子どもにとっては落ち着ける環境とは言えない。可動式の棚や仕切りなどを用意するなど、他の遊びや他人の目を気にせず、子どもが遊び込める、集中できるような環境設定の工夫を期待する。</p>
3	<p>職員への学童クラブの運営方針の理解の深化、個別の職員育成計画の作成、あわせて職員の定着化が望まれる</p> <p>平成28年1月の訪問調査時点で正規職員3名、パート職員1名を配置している。正式職員3名は、保育士2名、学童指導員の資格要件を持つ大学心理学部卒1名であり、パート職員も保育士の資格を保有しており、学童クラブの職員として必要な資格を持つ人材を配置している。しかし、パート職員は当学童クラブにて3年の勤務歴があるが、パート職員以外の正規職員は今年度4月から異動してきた人達で、学童クラブでの勤務歴は初めてである。そのため、職員への学童クラブの運営方針の理解の深化、個別の職員育成計画の作成、あわせて職員の定着化が望まれる。</p>